

岡山県立

# 岡山朝日高等学校

担当：徳山容

岡山朝日高校は旧制第六高等学校（六高と略す）の校舎があった場所にあります。六高ゆかりの‘菊桜’を後世に伝えようと、長野士郎元岡山県知事たち六高OBが「林木育種センター関西育種場」や樹木医などに依頼し、六高記念館前などにあった‘菊桜’から接ぎ木をした苗木が2008年に校庭に植樹されました。今では、5本の‘菊桜’がそれぞれ元気に成長し、4月から5月になると、あざやかな赤色からピンク色の美しい花を咲かせます。散るときはポンポンのような球形のまま落花し、遊ぶように風に揺れる姿は趣があります。

## 六高記念館

担当：徳山容

1907年に六高の大渡忠太郎教授が校庭で植栽していた桜を東京帝国大学三好学博士に送ります。博士は1916年に‘菊桜’と命名し、発表しました。母樹は岡山空襲により焼失しました。その前年の1944年に、同校助手だった佐藤清明は戦禍から‘菊桜’を守るため一枝を里庄町の生家で接ぎ木し、生命をつないでいました。1980年に六高記念館が岡山朝日高校の校庭に建てられる時、当時をしのぶシンボルとして里庄で継承されていた‘菊桜’を元に増殖した6本の苗木が植樹されました。今では、1本だけが毎年花をつけ歴史を語りついでいます。

## 青春の昔をしのぶ 六高ゆかりの‘菊桜’



撮影：2022/5/1

【場所】岡山市中区古京町2丁目2-21  
※敷地には入れません

## 六高OBの贈り物 歴史をつなぐ‘菊桜’



撮影：2022/5/1

【場所】朝日高校と同じ  
※敷地には入れません

# 岡山大学

担当：土岐 隆信

勢いが戻った

## うすいピンク '菊桜'



撮影：2019/4/28

2017年、菊桜育成保存会が岡山大学を訪れた時は'菊桜'は弱っていました...  
 そこで、保存会は木の生育状態を回復させようと立ち上がりました。まず2018年に樹木医の指導の下、根回りの土壌改良をして肥料を与えました。その後も毎年12月にみんなで育成作業を行い、岡山大学の関係者と連絡を取り合い生育状態を気にかけることで見事に復活しました！この'菊桜'の特徴は白い花が多いところで、場所は本部棟前にあります。2022年には新しい立て看板を設置しましたので、見つけやすいと思います。

と き たかのぶ  
土岐 隆信さん

弱っていた岡山大学の'菊桜'は、多くの人の力を借りて復活しました。



【場所】岡山市北区津島中1丁目1-1 (本部棟前)

### NEW 看板！



#### '菊桜'

きくざくら

学名：Cerasus Sato-zakura Group 'Chrysanthemoides' Miyoshi

別名：六高菊桜

'菊桜'は4月中旬から5月上旬にかけて咲く、花弁数が100~300枚にもなる菊咲きの桜である。

明治40年(1907)岡山大学の前身の一つ第六高等学校大渡忠太郎教授が校庭で植栽していた桜を東京帝国大学三好学博士に送り、大正5年(1916)に'菊桜'と命名され発表された。

母樹は岡山空襲により烏有に帰したが、その前年の昭和19年(1944)戦禍から守るため同校助手だった佐藤清明氏(後に岡山大学農学部講師)が一枝を里庄町の生家で接ぎ木し継承していた。戦後、この樹を元に作られた苗が皇居や岡山後楽園など縁のある場所に植えられ、昭和54年(1979)に岡山大学へ植樹された。

令和4年(2022)11月

岡山県立岡山県立教育文化振興財団

菊桜育成保存会 佐藤清明資料保存会



他の場所にある'菊桜'と比べて大半が真っ白な花色 (2021/4/20)